

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2190500153		
法人名	有限会社百々		
事業所名	グループホーム百々各務原		
所在地	岐阜県各務原市那加桐野町7丁目44番地1		
自己評価作成日	平成27年6月30日	評価結果市町村受理日	平成27年10月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/21/index.php?act=on_kouhyou_detai_2014_022_kani=true&ji_gyosyoCd=2190500153-00&PrEfCd=21&Versi onCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成27年8月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設6年を迎えました。ホームの理念「家庭的な雰囲気の中で心安らぐ毎日」は変わることなくホームの柱になっています。利用者様は毎日穏やかに、時には行事や外出でにぎやかに生活されています。隣接する畑や玄関前の庭には季節の野菜や花々が植えられ、「収穫する楽しみ」「食す楽しみ」を味わっています。地域交流は年数と共に濃くなり、運営推進会議はもちろん、避難訓練や夏祭りなどの行事にもご参加頂いています。家族様と利用者様との繋がりを大切にしたいとの思いから、面会時間も決めていません。気軽においで頂けるようお声掛けを心掛けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自治会に加入し町内清掃、防災訓練などの行事に積極的に参加している。今では地域のふれあいサロンで講師をしたり、地域との交流を大切にしている。自治会の回覧板に事業所の夏祭りや避難訓練などの行事を紹介している。また、運営推進会議などに自治会をはじめ、地域住民に参加していただいている。地域ボランティアの受入れも積極的に行っている。近隣の住民より季節の野菜が差し入れられることもある。事業所の敷地内に畑があり、野菜を作り、収穫の喜びや新鮮な野菜を食べられることが利用者の楽しみとなっている。事業所所有の小型犬が事業所内を駆け回っていることが利用者の癒しになっている。職員には「できることは利用者にしてもらいたい」との思いがあり、利用者が心安らぐ毎日を送ることができるよう、力を尽くしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は目に留まりやすい場所に掲示。ミーティングや研修を通して職員へ周知し、利用者や家族の雰囲気を作り上げている。全員がそろってお茶、食事ができるよう声かけをし、職員も一緒に談話できる時間を設けている。	管理者は職員に理念を書面で示し、面接時等に意義を説明している。会議や研修で、理念を共に学んでいる。作業を利用者に手伝ってもらっている様子を見て、理念が実践されていると確認している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	開設当初から自治会へ加入しお付き合いをしている。、運営推進会議への参加をいただく中で自然と交流が深まり、自治会の行事や事業所の避難訓練へのご協力を頂けるようになってきている。	事業所として地域の防災訓練、市民清掃に積極的に参加している。事業所の七夕会、運動会、クリスマス会、避難訓練には多くの地域住民の参加があり、交流が活発である。季節の野菜がよく差し入れられる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や行事を通して地域の方と交流する中で、認知症への理解が浸透してきている。町内のボランティアハウスでの施設紹介もその一例である。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議にはほとんどの役員が出席して下さり、活発な意見を頂いている。昨年からは包括がボランティアとして夏祭りに参加してくれ、これも運営推進会議から発した取り組みである。	事業所の現況、行事予定、ヒヤリハットや事故報告について報告している。それに対し自治会や地域包括支援センターから意見や質問があり、市の担当者から提案や指導がなされ、活発な意見交換の場となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議や研修での意見交換を行い、協力関係を築いている。	市の担当者と電話、電子メールで連絡を取り合っている。書類を提出する時や運営推進会議で質問や相談ができる関係もある。市の担当者からは利用者の空き状況等について問い合わせがある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は市の指導で行っているが、それ以外の施錠は行っていない。「身体拘束・虐待防止」について職員が講師となり研修を行い、常に拘束をしない介護を職員全員が実践している。	玄関の錠は内・外から開錠できるようになっている。1階のリビングダイニングの窓から外に出る利用者もいるので、注意をはらい見守っている。毎月のミーティングや研修会で、身体拘束・虐待をしないケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員が講師となり「虐待防止」について研修を行う中で、虐待を意識して業務を行っている。		

グループホーム 百々各務原

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在該当する利用者がおられ、研修を行い周知していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に苦情受付窓口を示し説明している。玄関にも意見箱を設置している。管理者や職員に直接意見を言われることがほとんどで、その場合は記録にして全員に周知し対応している。	管理者や職員は利用者・家族から、日常生活やケアについて、意見を聞いている。出された意見はファイルに記録し、できることはすぐに実行し介護計画に反映させている。食べたい物や外出に関する意見が多い。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	研修やミーティングで意見、提案を聞き、解決できることはその場で、あるいは後日回答している。	職員はミーティング時以外にも、日頃より管理者に意見や提案をしている。利用者の外出先についての意見に対応方法を話し合ったり、職員の有給休暇に関して、勤務体制の見直しを行った。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得の奨励、資格手当、皆勤手当の支給をし、パートから正規職員への登用もしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修を行い、各人に見合った業務内容を作成している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部の会議や研修への参加を促している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員一人一人が関わり合い、不安に寄り添っている。気づいたことはカンファレンスや会議で共有している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	計画作成者が主に要望等を聞いているが、センター方式を使用して職員全員が把握できるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	担当者会議、カンファレンスで必要としている支援を見極めるようにしている。入居前の関係者に意見をお尋ねすることもある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員が忙しくしていると自然にお手伝いをして下さる関係がみられる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	通院や外出等、家族様の協力を頂くことがあり、またそうしていただけるようお願いすることもある。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	こちらから積極的な声かけはできていない。近所知人の方の来訪はあるので、次回面会へのお声かけはしている。手紙や電話の取り次ぎ支援をしている。	センター方式を用いて把握に努めている。知人、友人への絵手紙や年賀状の支援や電話の取次ぎなどを行っている。しかし、利用者への支援だけでなく、知人、友人に対しての働きかけをするまでには至っていない。	利用者への支援だけでなく、知人、友人に対しての働きかけができるように職員間で話し合い、今まで以上に積極的な関係継続の支援を期待したい。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係は把握しており、座席の配置、レクリエーションのセッティングに配慮している。		

グループホーム 百々各務原

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後の様子をお尋ねしている。時に面会することもある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントや担当者会議でご家族様、利用者ともに思いをお尋ねしている。言葉で表現できない方は職員が日頃の行動や表現を読み取り、プランに反映している。	入居時の面談で把握をし、日々のケアにおいて補っている。家族からは担当者会議等で聞くことが多い。困難な利用者は日常の表情と行動から、思いや意向を汲み取っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント、センター方式の利用、関わりのある事業所等から情報提供をいただき把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	常に決まった職員が勤務しており、一人ひとりの過ごし方を理解して支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月モニタリングを行い、家族様の意見もお尋ねして介護計画を作成している。病状によっては主治医に意見を頂くこともある。	管理者と職員が話し合い、利用者・家族の要望やモニタリング結果などを踏まえて、計画案を作成している。変更等を含め、担当者会議で利用者・家族の意見を聞き、介護計画を作成している。主治医の意見も取り入れている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の記録、変化には施設支援経過報告書に記載し、記録をつける習慣付けをして申し送りや、会議で共有。介護計画の見直しに繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要であれば家族様と通院に同行したり、家族様に代わり通院介助を行っている。時には外部の事業所に支援をお願いすることもある。		

グループホーム 百々各務原

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在地域資源の活用はない。活用していきたい思いはある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の継続をお願いしている。時に病状に合わせた病院への変更もあるが、家族様と相談し行っている。	かかりつけ医は利用者の入居前からの主治医としている。通院は家族に依頼しているが、できない場合は職員が付き添っている。受診時の情報ノートを作成し、家族、医師、事業所が共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	異変はホーム内の看護師、訪問看護師に報告し、相談や指示をいただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は退院に向けて病院内の看護師、ソーシャルワーカーと連携をとっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	原則ホームでの看取りは行っていないと契約時に説明しているが、家族、医師の協力があれば可能であることを付け加えている。	契約時に、原則として重度化や終末期における看取りをしない方針を説明している。緊急時には家族、医師と話し合い、利用者にとって最善であるよう対処している。利用者・家族からの要望で看取りを行った事例もある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修として救急救命講習を消防職員から受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を行い、内1回は自治会役員と消防団、消防署の協力を得て行っている。夜間想定を必ず実施している。	避難訓練は、自治会、近隣住民、消防署、消防団の協力により行なっている。夜間想定の場合は職員2名の訓練とし、他の職員は黒子となって見守っている。非常時の食料、毛布などを備蓄している。	

グループホーム 百々各務原

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	丁寧な言葉かけに努め、排泄介助にも席を外して配慮する気遣いをしている。利用者によっては傍を離れられないためプライバシーが守れていないこともある。	ノックをして入室し、親しみのある言葉づかいで声かけしている。排泄に全介助が必要な場合であっても、プライバシーを損ねないように配慮し、トイレでの介助を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来る方には入浴準備や布団干し、カバーつけ等をスタッフと一緒にを行うような働きかけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活のペースを把握しており、必要であればプランに盛り込みプランに沿った生活をして頂いている。食事と入浴は時間が決まっているが、入浴は希望の時間帯で入って頂ける。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お気に入りの服があり、職員は皆把握している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来ることを出来る方がされている。畑の収穫・下ごしらえ・片付け。「いただきます・ごちそうさま」の挨拶を担当されている方もみえる。	食事の準備や片づけはできることを利用者と一緒にいき支援している。献立は利用者の希望を聞き、畑で採れた野菜を中心にしている。食卓を利用者と囲み会話と笑いがある。希望により外食することもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量は記録し、少ない時は補う。嗜好品で対応する方もみえる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後3回必ず実施。入れ歯を外して行っている。		

グループホーム 百々各務原

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来るだけトイレでの排泄を考えている。車いすの方も時間を計りトイレ誘導を行っている。清潔を保ちトイレでの排泄が気持ち良いと思ってもらえるよう努力している。	トイレでの排泄を基本としている。自分の意思でトイレに行くことのできない利用者には、排泄チェック表を参考に早めに声掛け、誘導している。失敗があっても尊厳が保たれるよう気を配り支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動には限界があり、水分量と便秘薬で対応している。便秘薬も生活に支障の無いよう、使用時間を試行錯誤で考え対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時間は決まっているが、希望の時間を優先している。汚れが有る時は入浴日ではなくても入って頂いている。	入浴好きな利用者が多く、一人ひとりゆったりと時間をかけて入浴している。入浴は概ね2日に1回ではあるが、希望すれば毎日でも入浴可能である。利用者と一緒に唄を歌いながらの入浴介助するなど、楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息は自由にされている。昼夜逆転の方はできるだけ日中を起きていただいて、夜間眠れるように支援している。眠りやすい室温も考え、エアコンの温度にも気をつけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬については職員が説明書に目を通して確認している。変更時には必ず記録し、申し送りを行って周知させている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員はそれぞれの楽しみや役割を把握しており、裁縫や、パズル、家事等を声かけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員の配置数に左右され、毎日の外出はできていない。天気の良い日のお散歩や庭の草むしり、畑の収穫、他施設の催し物等は可能な限り行っている。	散歩や草むしりなどの日常的な戸外への外出は利用者一人ひとり概ね週に1回ほどである。季節毎の計画的な外出は、初詣、花見、いちご狩り、紅葉などのほか、一泊旅行に出かけることもある。しかし、利用者の希望に添った外出支援までには至っていない。	散歩や買物など、日々の外出を希望する利用者が多い。利用者個々の希望に添った外出支援ができるよう、職員間で話し合い、運営推進会議等を活用し検討することを期待したい。

グループホーム 百々各務原

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に金銭所持はないが、希望があれば所持されている。その場合、他利用者とトラブルにならないよう見守りをしている。ほとんどの方は使用することは少ない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話も手紙も自由であるが、希望される方がみえない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾り、壁には利用者の作品(塗り絵)や行事の写真を貼ってある。有線放送で心地よい曲や演歌、童謡を流すこともある。広い窓から見える外の風景も隔離されていない雰囲気を感じさせている。	1階・2階ともに、共用空間は広く、明るく、清潔感・開放感がある。リビングダイニングにはソファが多く配置され、畳のコーナーもあって、利用者が自由にくつろぐためのスペースがある。利用者と一緒に制作した季節感のある貼り絵やぬり絵が掲げられていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	対人関係は把握しているので、不安を感じさせない席への誘導やレクリエーションの提案をしている。一人が好きな方は居室や離れた席で過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用されていた品を持ち込んで頂いている。危険な物は場合によってはお預かりさせて頂いている。本人様の要望を聞いて家族様が持ち込まれることが多い。	ベッドとエアコン、利用者と家族の思いが込められた家具や身のまわりの小物など自由に配置されている。各居室の扉には思い思いの手作りの表札が飾られ、居室を間違わないように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、お風呂には分かりやすく表示をしている。居室扉には表札を掛け、迷わないようにしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2190500153		
法人名	有限会社百々		
事業所名	グループホーム百々各務原		
所在地	岐阜県各務原市那加桐野町7丁目44番地1		
自己評価作成日	平成27年6月30日	評価結果市町村受理日	平成27年10月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/21/index.php?act=ion_kouhyou_detai_2014_022_kani=true&ji_gyosyoCd=2190500153-00&Pr_efCd=21&Versi_onCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成27年8月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	見やすい場所に掲示し、常に初心を忘れないようにしている		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入して、夏祭りや避難訓練などの行事に参加して頂き、交流を行っている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で事例を挙げて具体的にお話をしている。自治会役員の方からも介護の経験をお聞きし、お互い参考にさせてもらっている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議にはほとんどの役員が出席して下さり、活発な意見を頂いている。昨年からは包括がボランティアとして夏祭りに参加してくれ、これも運営推進会議から発した取り組みである		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議や研修での意見交換を行い、協力関係を築いている		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は市の指導で行っているが、それ以外の施錠は行っていない。「身体拘束・虐待防止」について職員が講師となり研修を行い、常に拘束をしない介護を職員全員が実践している		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員が講師となり「虐待防止」について研修を行う中で、虐待を意識して業務を行っている		

グループホーム 百々各務原

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修を行い学ぶ機会を作っている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に説明を行っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に苦情受付窓口を示し説明している。玄関にも意見箱を設置している。管理者や職員に直接意見を言われることがほとんどで、その場合は記録にして全員に周知している		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	研修やミーティングで意見、提案を聞き、解決できることはその場で、あるいは後日回答している		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得の奨励、資格手当、皆勤手当の支給をし、パートから正規職員への登用も行っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修を行い、各人に見合った業務内容を作成している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部の会議や研修への参加を促している		

グループホーム 百々各務原

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員同士が常に利用者様に対する意見交換や、気付きを伝えあい、本人様と一緒に歩んでいけるように努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	おもに計画作成者が家族様と話し合うが、他の職員も気付いたことは家族様と相談するようにしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	支援している中で気付いたことは本人様、家族様と相談し、できるだけ希望に添うよう努力している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員も利用者様もお互いが平等に、「できること」をし助け合って生活している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常に利用者様本位で考え、家族様と話し合い、本人様を支えていく気持ちでいる		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時間の制限はなく、お受けしている。来客には必ずごあいさつし、またの来所をお願いしている		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	出来る範囲で皆さん一緒におやつやレクリエーションをするよう働きかけている		

グループホーム 百々各務原

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後の様子をお尋ねしている。時に面会することもある		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	表現できない利用者様は職員、家族様と話し合い支援にあたっている。表現できる方はお話を傾聴し、希望に添うよう努力している		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族様やご本人様からお聞きしている。事前にセンター方式で情報を得ているので話のきっかけが出来る		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	常に決まった職員が勤務しており、一人ひとりの生活を理解している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月モニタリングを行い、家族様の意見もお尋ねして職員全員で介護計画を作っている。病状によっては主治医に意見を頂くこともある		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の記録や施設支援経過報告書に記録し、話し合う機会を設けている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要であれば家族様と通院同行したり、替わって通院介助を行っている。時には外部の事業所をお願いすることもある		

グループホーム 百々各務原

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在地域資源の活用はない。活用していきたい思いはある		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の継続をお願いしている。時に病状に合わせた病院への変更もある		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	異変はホーム内の看護師、訪問看護師に報告し、相談指示をいただいている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は退院に向けて病院内の看護師、ソーシャルワーカーと連携をとっている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	原則ホームでの看取りは行っていないと契約時に説明しているが、家族、医師の協力が有れば可能であることを付け加えている		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修として救急救命講習を消防職員から受けている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を行い、内1回は自治会役員と消防団、消防署の協力を得て行っている。夜間想定を必ず実施している		

グループホーム 百々各務原

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	対応に気をつけているものの、実践できていないこともあり反省をする事がある		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常会話から思いをくみ取るように心掛けています。また、実践へつなげるよう言葉がけも行っている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	レクリエーションなどは声かけをして参加の有無を確認している。皆様の過ごし方はほとんど把握しているので、それぞれのペースで過ごされていると思う		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時に整容に気をつけている。選択できる方はご自分で衣類を選んで頂き、困難な方は季節、気候を考慮して家族様と職員で選ぶようにしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様が参加して食事の支度、後片付けを行っている。畑収穫、下ごしらえ、下膳、食器洗い、食器ふき、それぞれ自然に役割分担されている。食事のペースは異なり、出来る方は時間がかかっても見守りで自己摂取していただいている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	それぞれ食形態が異なり、とろみ食、刻み食で対応し、支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	必ず毎食後に行う習慣となっている。不都合があれば提携歯科医にかかることもある		

グループホーム 百々各務原

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を見てトイレの促しと介助を行っている。失敗が自信喪失にならないよう支援している		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	その時々で状況で主治医に相談し検討している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日が決まっており、その中で希望が有る方はお聞きしている。また、入浴日にかかわらずその時に応じて入って頂くこともある。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お好きなように過ごして頂いているが、体調のすぐれない方は日中の休息を支援。夜間不眠の方はお話を傾聴し、安眠できるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が薬の把握に努めている。疑問はホームの看護師や主治医に尋ね理解に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	意欲の持てるよう役割を持って頂いている。例えば犬の世話、畑の収穫、台所仕事、行事の飾り付け等。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員の配置に余裕のある時に、要望のある外出を行っている。家族様が喫茶店にお連れして下さる方や自宅に帰られる方もある。		

グループホーム 百々各務原

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に金銭の所持はないが、希望があれば所持されている。他者とのトラブルにつながったり、盗られることを心配される方は家族様と相談して控えていただくこともある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族様の了解のもと、希望の方は手紙、電話のやり取りをされている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を利用者様に生けていただいている。有線放送でその場に合った心地よい音楽を流す時間もある。2階の窓から見える山や田畑がのどかな風景を描いている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	対人関係の把握はしているので、気の合った方同士席を近くしている。また、居室で過ごしたい方はご自由にして頂いている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族様が居室の模様替えをして下さったり、ご本人が自分の作品を飾り楽しんでおられる		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、お風呂には分かりやすく表示をしている。居室には表札を掛け、迷わないようにしている		